

長野・膳棚B遺跡

1 所在地 長野県岡谷市今井

2 調査期間 一九八三年(昭五八)四月～一〇月

3 発掘機関 長野県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 市沢英利

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 縄文時代早期・晩期、弥生時代後期、古墳時代、平安時代、中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(諏訪)

本遺跡は諏訪湖の北西約五km、塩嶺山地山麓部の扇状地上に立地している。標高八二六m、周辺には先土器時代から平安時代にかけての小規模な遺跡が点在している。中央自動車道長野線岡谷インターチェンジ部分にあたり、約七二五〇㎡を調査した。その結果、調査区の大部分は背後の山地から供給され

た砂礫層で、その中のわずかな黒色土層から縄文時代早期末・晩期の遺構・遺物が発見された。この他、弥生時代後期・古墳時代・平安時代・中世の遺物がごく少量出土している。

木簡は、水田床土下の砂礫まじりの灰褐色土層中より出土した。付近一帯は砂礫層が分布する湧水の激しい地点で、流れ込みと考えられる弥生土器・内耳土器が少量出土したのみで、木簡に関連する遺構は検出されず、共伴遺物も明確に指摘できない。

8 木簡の积文・内容

(1) 「|||||」□

(140)×31×3 019

両側縁は削られており、上部は切断されているが、下部は折れている。上端断面を見ると樹皮をむいたあとがそのまま残っている状態が観察できる。

9 関係文献

長野県埋蔵文化財センター『長野県埋蔵文化財センター年報』(一九八五年)



(市沢英利)